

年間第 2 4 主日の説教

金 大烈 神父 2010 年 9 月 12 日 (日)

《御父の御心》

主の平和！

お元気ですか？ 少し元気のない声の人が何人かいるようですね。元気になりましょう

イエス様が 2000 年前にこの世に来られ、伝えた言葉を『福音』と言います。そして その様々な『福音』中で、イエス様が特に力を入れて説いたのは御父の御心でした。

例えば 2000 年前イエス様が現れる前のイスラエルの長い歴史の中で、人々が神様に感じていたイメージは“恐怖”でした。

もちろん旧約聖書の中には、慈しみ深い神様等と表現はありますが、それは本当に慈しみ深いと感じたからその表現を使った訳ではありませんでした。イエス様が現れるまで、イスラエル人、ユダヤ人の考える神様は“恐怖”であり、たまに出る慈しみの神様も条件付きでした。もし事柄が上手くすすめば神様は赦して下さる。上手く行かなければ私達は助からない。旧約聖書を読むとこのようなイスラエル人の神様に対しての理解がよくわかります。

ですから、イスラエル人が神様に使った「慈しみ深い」という表現の中には、神様に対しての恐怖感が隠れていたわけです。宗教指導者達もこのような神様を強調して来たのです。それをみたイエス様は心が痛くなっていました。イエス様の知っている御父は違いました。そして新約聖書のいろいろな所にイエス様の気持ちが現れています。

今日の福音（ルカ 5・1-32）の箇所もその一つです。羊百匹の中の一匹を失った為に、九十九匹を置いて探しに行くその心、銀貨十枚の内一枚を失い、なんとか探し出し、その喜びを皆と分かち合う心。そして、この物語に続く箇所は放蕩息子の比喻です。

皆様一つ覚えて下さい。私達は今九十九匹に入っているかもしれませんが、しかし望ましい態度は生きている限りにはこの見失った一匹の羊が私達の事を言っているのだと思うことです。

私が 2 年前にも話した事ですが、大体のカトリック信者はこの福音の話をする時、教会に来ていない人や、拒んでいる人を思い出します。私達は九十九匹に入っているかもしれませんが、今日の『福音』のメッセージは私達全員がこの人生の中で完璧な救いの門に入るまでは彷徨^{さまよ}っている、迷っている一匹の羊である事を意識しなければならないという事です。ということは、その見失った一匹の羊である私達の為に、神様は今も絶え間なく御心を使っていらっしゃる事です。その御心を私達が少しでも推し量らう事が出来れば、私達の神様に対しての愛はもっと深くなると信じます。

御父の事を怖がらないで下さい。恐れなくて下さい。私達の迷い、間違い、犯した罪の為に、心を痛めている慈しみ深い方であることを信じてください。それが今日の『福音』でイエス様が伝えようとした御父の心です。

皆様、祈りますね。どのように祈りますか？ 赦しの秘跡を受けるのは何故受けるのですか？ 理由が恐さの為だったら間違いです。愛の為でなければ祈り、赦しの秘跡も意味がありません。怖いから信じる、従う、ついて行く。それではいい信仰の身を実らせません。皆様の心の中にある御父のイメージが暖かさになって欲しいです。神様はあなた方を本当に愛されています。

ありがとうございました。